

飛田雄一ブログ「ゆうさんの自転車／オカリナ・ブログ」より

<http://blog.goo.ne.jp/hidayuichi/> 2023年6月7日

(この goo、閉鎖された。そのブログは、<http://ameblo.jp/rokko-you/>に移転したが、なぜか、この記事は移転されていない。)

きょうのNHKらんまん、万太郎が印刷所で働いていた。

「石板」印刷。

飛田家に小磯良平の「石板」原画があった。

父・飛田道夫が働いていた岡部証券印刷株式会社では、毎年小磯良平のカレンダーを作っていた。その石板現物の一枚を会社からいただいたものだ。

岡部証券の社長も小磯良平も神戸教会の会員で、その関係があったのかもしれない。

わが家にあった小磯良平の絵は、「帆船」。

すてきな絵だった。

当時の技術としてはきれいで原画のようだったという。絵の部分だけを額に入れて「販売」し、捕まつた社員？がいたとも聞いた。

両親の死後、小磯良平の絵と川西英の版画が残された。

それぞれ装丁をしなおした。その装丁屋は、どちらも同じように価値があるものだといっていた。

小磯良平は姉が、川西英は私が受け取った。

先日、姉から連絡があった。

小磯良平の絵を小磯記念美術館に寄付したこと。

そのとき美術館の方と、次のようなことだったという。

岡部印刷の年2回のカレンダーのために小磯良平がインク版に書いたもの。(美術館)

岡部印刷の工場長であった飛田道夫、牧師の鈴木浩二のことなどを聞く前から教えてくれた。

私は、石板とインク版がどう違うのか分からぬ。同じものかもしれない。

父が工場長だった？のも初めて知った。

鈴木浩二は、私の母・飛田溢子の父。神戸教会の牧師、日本基督教団の総務局長などをしていた。私が小学校3年のころに亡くなった。大好きなおじいさんだった。

岡部証券印刷に私も行ったことがある。株の証書を印刷する会社で、活版印刷だ。植字室につれていってもらって、「飛田雄一」の活字を組んでもらった記憶がある。

母は、子どものころ、小磯良平のアトリエによく遊びにいっていたという。押し入れ？にスケッチがたくさんあった。

「一枚ちょうどいい」といったがくれなかつた。サインのないもので？、あげることなどできないものだったろう。

最近、小磯記念美術館にいっていない。

また愛用のアシスト自転車に乗って、たずねたい。その「帆船」をまた見てみたい。